



# 浜家連 ニュース4月号

第224号

2019年 4月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836  
URL <http://hamakaren.jp/>

みんなねっとフォーラム2018に参加して

副理事長 井汲悦子

## 「精神障害者が安心して暮らせる地域づくりを共に」～新しい動き～

2019年3月1日帝京平成大学で行われたみんなねっとフォーラム2018に参加しました。私は「地域づくりの新しい動き」という言葉に関心を持ちました。

最初に伊勢田堯氏より「ベルギーの精神科医療改革から何を学ぶか」という講演がありました。民間の精神科病院の多かったベルギーは、1990年に精神病床をグループホームとナーシングホームに転換し地域移行を促す病棟転換政策を行ったが失敗、1995年には大所高所から助言指導する国立諮問機関を設立したが失敗、2010年に病床の地域訪問治療チームへの転換政策で改革が軌道に乗ったそうです。ベルギーは一日にして成らず、今のわが国の現状では、ベルギーのような精神科医療改革を行うのは困難。今後の課題として、行政・専門家集団・家族会運動などの質のレベルアップ、「改革ビジョン」のリセットが必要。当面、国内外の経験を相互に学び合う活動を展開する。モデルは、EUCOMSの合意文書とのことでした。

次に、厚労省の得津肇精神・障害保健課長より「精神障害者地域包括ケアシステムとアウトリーチ支援事業の取り組み」について行政報告がありました。「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」とは、精神障害者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしができるよう、医療、障害福祉、介護、社会参加、住まい、地域の助け合い、教育が包括的に確保されたシステムと

のことです。これらの取り組みを構築するために都道府県の自治体に補助を行う地域包括ケアシステムの構築推進事業と、アドバイザーの派遣や手引きの作成により支援を行う支援事業を実施している。地域の基盤整備を進めると共に、アウトリーチにより、地域定着の取り組みを進めている。平成30年度からは地域包括ケアシステムの構築推進事業のメニューにこれまでのアウトリーチ事業と比べて実施要件を緩和した「アウトリーチ支援に係る事業」を新設した。さらに31年度は「普及啓発に係る事業」を新設することです。先のベルギーの話と比べながら聞きたかったのですが、残念ながら早口の語りと文字が小さ過ぎて読めないパワーポイントで内容を十分に聞き取ることができませんでした。

午後からはサブテーマ「当事者・家族ができること」でさいたま市の訪問診療のだるまさんクリニック及び訪問看護ステーションふぁん（アクト）の西村秋生医師のコーディネートのもと日本ピアスタッフ協会、福岡県久留米市のリカバリーセンターくるめの磯田重行氏、東京墨田区の岡崎訪問診療クリニックの岡崎公彦医師、さいたま市もくせい家族会の佐藤美樹子氏がシンポジストとしてそれぞれの実践を話されました。どの方も、利用者に寄り添いリカバリーを目指して活動されています。

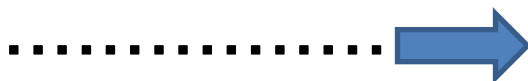
その中でも、特に参考になったのはもくせい家

族会の活動でした。もくせい家族会は我が子の居場所を創ることが設立のきっかけだった。しかし、授産施設と作業所2か所を創ったが、会員の2割の当事者しか利用できず、多くは自宅療養のまま家族会員の抱える現状は変わらなかった。社会資源である施設創りは自分達の状況を自分達で解決しようとする内向きの活動だったとのこと。「つなぐ」「つながる」ためには家族が外とつながり地域を取り戻すことが必要。家族の体験や課題を外に向かって声にしよう、目指すは家族のリカバリーへと舵を切った。家族ができるのは、家族自身の体験に基づいた活動（家族による家族学習会や家族のリカバリートーク等）、地域に活動する市民団体として市民活動フェスティバルに参画した。また多職種の方の出席を得てアクトの勉強会や研修会も行った。その結果3年後アクトが開設した。ところが、そこにまた利用したくても利用できない家族が居て「つなぐ」「つながる」が思うように進まなかった。そこで、家族会活動にも

訪問型支援を取り入れることにして、もくせいお茶のみ隊を開始した。研修を受けた会員2名ずつで訪問し、家族の悩みや話を聴くこと、閉じた家庭に風を送り込むこと、隣のおばさんがお茶のみに立ち寄る感じで邪魔にならない支援を心掛けること、当事者に働きかけることはしないことなどの要領で活動を続けている。アウトリーチ支援が立ち上がるまでは家族の体験と思いを繰り返し伝えて地域の賛同者と出会ってきた。アウトリーチ支援が立ち上がったなら、会員にアウトリーチ支援の利用を促し、なかなか利用に踏み切れない人の背中を押す。2016年からは地域事例検討会を始め、職種を超えて家族も参加して支援者と家族が協働する地域づくりを行っている。

「つなぐ」「つながる」は家族が望んでいることながらなかなか前に進まず、どこの家族会でも抱える課題です。もくせい家族会の取り組みはこれからの家族会活動の方向が示されている様に思います。

## 浜家連の動き



\*\*\*\*\*平成2019年度年間啓発事業（案）が決まりました\*\*\*\*\*

（浜家連研修会・市民メンタルヘルス講座・ブロック別市民精神保健福祉フォーラム  
家族学習会担当者研修会）

2019年度の啓発活動の日程、内容等が決まりました。今から手帳に書き込んでいただいて、各イベントにお誘いあわせてご参加ください。

### 【浜家連研修会】

会場：横浜ラポール2階 大会議室

	日 時	テーマ	講 師
第1回	6月21日（金） 13:30～16:00	親が当事者、子供の立場から	横山 恵子 氏 坂本 拓 氏
第2回	7月19日（金） 13:30～16:00	当事者・家族・支援者に優しい 「統合失調症薬物ガイド」の紹介	東京大学医学部付 属病院精神神経科 市橋 香代 先生 YSP 横浜スタッフ
第3回	9月20日（金） 13:30～16:00	英国メリデン版 訪問による家族支援について	篠崎 安志 氏 松井 洋子氏
第4回	11月15日（金） 13:30～16:00	親ある内の準備を整える	渡部 伸 氏
第5回	12月 5日（木） 13:30～16:00	依存症の当事者に対する家族対応の 仕方	交渉中

## 【ブロック別市民精神保健福祉フォーラム】

会 場：横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

	日 時	テ ー マ	講 師
1日目	10月12日(土) 13:30~16:00	働きながら家族再生	佐々木 常夫 氏
2日目	10月26日(土) 13:30~16:00	映画の上映及び講演 「オキナワへ行こう」	大西 暢夫 監督

## 【ブロックフォーラム】

ブロック (担当単会)	実施日	会 場	内 容
Bブロック (いずみ会)	9月14日(土)	泉区 テアトルフォンテ	笑いヨガ 当事者による体験発表
Cブロック (みなと会)	9月28日(土)	横浜市健康福祉総 合センター	岩成 秀夫 先生の講演
Dブロック (あおぞら会)	2020年 2月15日(土)	金沢公会堂	講演会 障害者を持つ家族への支援

## 【家族学習会担当者研修会】

日 時 2019年7月1日(月)

場 所 横浜ラポール2階 大会議室

\*各単会で家族学習会の実施についてご検討下さい。



### ◆3月8日 理事会の冒頭で◆

3月8日の3月理事会で健康福祉局より以下について、説明を受けました。

1. 障害者団体補助金(運営補助金)、精神障害者家族支援事業(講習会運営)及び平成31年度横浜市予算概要について。
2. から、今後の生活支援センターの運営、自立生活援助について。

• 内容等については理事の方が資料をお持ちになっておりますので、お聞きになって下さい。

## 訃 報

先月号に続いて、悲しいお知らせが届きました。

家族学習会等でご活躍されていましたが、のぞみ 平野章夫さんが  
3月5日(火) 夕刻、永眠されました。

浜家連での長年のご活躍を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



## グループホームモニターを体験しました。

### グループホームモニターになって

1月28日生麦にある「ケアホーム もも」を訪問しました。昨年6月頃、モニター承諾書を提出して初めての活動でした。

グループホーム（以下GH）って古くて汚い空き家を改造して、入居者はつまらない顔をしながら生活していると勝手に想像していました。が、

15:45 駅改札前集合

近くの公共施設で打ち合わせ後、徒歩にて移動

16:30 GH到着

管理者、責任者、スタッフ等と懇談

入居者帰宅

適宜入居者と懇談。入居者の了解がえられれば、居室見学や個別懇談。

18:00 夕食

入居者と共にGHで準備下さったものを頂く。

19:00 振り返り

疑問や質問の時間

19:30 モニタリング終了

でした。

往きは緊張と寒さのせいか、距離は近いのにとっても遠くに感じました。GHは住宅街にある普通の建物でした。「**地域の中で普通の生活を営む**」ことを目指しています。築2年で中はとても清潔で、防火設備等も整っていました。10代後半から40代前半の男性7人、障害の種類もさまざまで、初めは職場になかなか到着しなかったり、トイレや風呂での失敗、壁や床をドンドンとたたいたり等々で、とても大変だったそうです。送って行くことにしたり、よく話合ったりして解決していったそうです。2年目の今はそこでの暮らしや仲間にも慣れ、皆落ちついていました。

夕食は全員揃って食堂でいただきました。栄養価も見た目もボリュームたっぷりで、とてもおいしかったです。今日だけこんなに豪華と思いきや、別の月のメニュー表も我が家とは比べ物になりま

### みなと会 田城アサ子

わが子も自立してくれたらな、GHに入れたらな、本当はどんな所か、どんな暮らしをしているのか知りたいと思いモニターになりました。

訪問メンバーは障害者支援センター職員と、今回は生活支援センターの方と私の3人でした。訪問は昼間かと思いきや、当日のスケジュールは



せんでした。[食べるのが心と体の1番の活力ですから力を入れている。]とのことでした。レクレーション等も皆で話合って、皆で出かけるそうです。今や実の親子でも虐待が問題になっているなか、こちらの管理者や職員の人柄に触れ、「ここの入居者は幸せだなあ〜」とつくづく思いました。

GHは市内に700箇所以上あるのに、1年に数箇所しかモニター訪問できていません。私はこの1回だけです。問題はモニタリングを拒否するGHがあることです。もう一つは、男性のスタッフ希望者が少なく同姓介助がむずかしいことです。どのGHに入居しても、あたりはずれが無く、よりよい生活が送れるようになることを期待しております。

いずれはわが子も・・・、と思いつつ、夜道を急ぎ帰路につきました。

【編集後記】 きびしい冬の寒さを乗り越え、春がやってきました。ピカピカの新人が、塊となって街中を歩いています。2019年度が始まりました。浜家連のみんなが元気になれるよう、「家族力」を発揮し、将来に向けて活動ができればと思います。

(事務局 中居)